

文京シビックホール 15周年記念公演

川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団 特別演奏会



福本信太郎（常任指揮者）



川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団



埼玉県中学校選抜吹奏楽団 第4期生

2015年5月24日(日)

開場／13:30 開演／14:00 会場／文京シビックホール 大ホール

演奏／川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団、埼玉県中学校第4期選抜吹奏楽団（ゲスト）

6人の作曲家によるホール開館15周年記念委嘱作品を演奏！



真島 俊夫
Toshio Mashima



天野 正道
Masamicz Amano



西村 朗
Akira Nishimura



池辺 晋一郎
Shin-ichiro Ikebe



長生 淳
Jun Nagao



中橋 愛生
Yoshio Nakahashi

Program

指揮：福本 信太郎（常任指揮者）

- 樹靈II～5本のクラリネットのための～／西村 朗（文京シビックホール委嘱・世界初演）
■次の時代のためのファンファーレ 金管八重奏のために／池辺 晋一郎（文京シビックホール委嘱・世界初演）
■Sonorific Detonation for Symphonic Band／中橋 愛生（文京シビックホール 委嘱・世界初演）
■花鳥諷詠／長生 淳（文京シビックホール委嘱・世界初演）
■Breezin'／真島 俊夫（文京シビックホール委嘱）
■SJ&P_16 “Viva Bunkyo Civic”／天野 正道（文京シビックホール委嘱）

- 5月の風／真島 俊夫 ■暁闇の宴【吹奏楽コンクール 2015年度課題曲】／朴 守賢

【ゲスト】埼玉県中学校選抜吹奏楽団 第4期生 研修発表会

- ヨークシャー序曲／P.スパーク 指揮：中畑 裕太（川口市立青木中学校教諭） ■太陽への讃歌—大地の鼓動／八木澤 教司 指揮：外崎 三吉（朝霞市立朝霞一中学校教諭）

- 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲／P.マスカーニ 指揮：鈴木 直樹（志木市立志木第二中学校教諭） ■歌劇「運命の力」序曲／G.ヴェルディ 指揮：田中 秀和（越谷市立大相模中学校教諭）

料金 SS指定：1,800円 S指定：1,500円 A：指定1,200円 B自由：1,000円 *団体割引：高校生800円、中学生600円

チケット ●チケットぴあ（～5/19）：pia.jp/t TEL.0570-02-9999 [Pコード：257-291]

●シビックチケット：03-5803-1103 (10:00～19:00) 土・日祝休日も受付。ただし5/17(日)は休業)

●シビックホールメンバーズ：http://bunkycivichall.jp/ よりアクセス（入会金・会費は無料）

●郵便振替（～5/19）：00110-6-54046（加入者名：アンサンブルリベルテ吹奏楽団）※希望券種と枚数を記入ください

●Eメール申込：h.koshikawa1201@s3.dion.ne.jp（パソコンからのメール受信設定が必要）

●電話申込（5/20～23）：090（3098）9212（事務局）

お問合せ 事務局：090（3098）9212 HP：<http://www.asahi-net.or.jp/~gx7m-skmt/>

主催：川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団 共催：文京シビックホール（公益財団法人文京アカデミー）協力：埼玉県中学校選抜吹奏楽団 後援：（株）ウインズ



Program notes

■ 次の時代のためのファンファーレ／池辺晋一郎

金管アンサンブルと言えば、まず思うのはファンファーレだ。それに逆手を使うという発想もあるだろうが、ここでは逆手の逆手、敢て「ファンファーレ」を書こうと考えた。

曲は、まずユーフォニアムとデューバによる第1のオスティナートで始まり、そこに第1の主題が乗る、ゆったりとした、いわば黎明である。次に2人のトロンボーンとユーフォニアムによる第2のオスティナート。そこに乗る第2の主題、明るさと確信を内包する。

そして高速の連音がやってくる。上昇気流と勢いを併せ持つ。といったんテンポを落としてそれまでを締括するや、第1のオスティナートが復活。最初の部分よりも展開が徹底される。第2の主題と高速連音は再現されない。結局、そもそも黎明が、そのまま力を獲得するさまが示されて、ファンファーレは終結する。

2011年、僕が監督を務める「せたがやジュニアオーケストラ」のために「次の時代のための前奏曲」という曲を書いたが、そのコンセプトを金管アンサンブルという形態で再燃させたい——そんな思いが、この作品に収められているだろう。



■ 樹霧II～五本のクラリネットのための～／西村朗

この作品は、公益財團法人文京アカデミーの委嘱によって、2015年1月から2月にかけて作曲したもので、前年の作曲である「樹霧I～二つのクラリネットのための」の姉妹作として着想されたものである。曲の演奏時間は約5分。

冒頭の和音進行による音階変化の大きい旋律樂に続いて、速い動きの五部声部状カノンとなり、波はスタッカートのハリスを変化する（ここまで第一部）。

その後軽いハイゼをはさんで、モルト・エヌッシュ・ヴォの旋律的な音高までのカノンとなる。その後、第一クラリネットが主導的に旋律を奏し、他の奏者が微音的に擦れ合う緩やかな波を奏てる部分となる。波は高音域で二つの波に収斂する。そこから下りしつづ急速な音形群の乱舞の出現に（ここまで第二部）。その後の第7小節から速い三連音による点打旋律カノンとなりトライに移するが、この部分は演奏終して第8小節の旋律奏へ飛ぶことが許容されている。第9小節より四小節間の第一奏者のソロのあと、短く動きのあるコードとなり締結（以上が第三部）。

なお、タイトルの「樹霧」とは、ここでは古い神社の聖域に秘めやかに並び立つ大樹が発する霧のようなものをしている。

■ 「花鳥諷詠」／長生淳

土地への挨拶、古風な言い回しをするなら国ほめというのでしょうか。文京区の、都心にしては緑豊かな土地柄、この街の現代の機能性と歴史のゆかり、そしてまたこの地に暮らす若人が多いことから未来へも思いを馳せ、それをうたい上げことほぎたい、というものがこの曲の出発点です。そして当初はそれらの風景を並置して対比を楽しむような構想だったのが、出来上がってみるとその名残りはあり、楽想が張りを変えていく面はあるものの、なかにひとつのことに視線が向いていくように思えました。自然より人事、なかんづ溢れ出る活気を描きることが主眼であるように。それが当初からの狙いではないだけに、花鳥諷詠の名に恥じず、客観的な写生の結果なのであります。



■ Sonorific Detonation for Symphonic Band／中橋愛生

タイトルは「響轟」とでも訳せましょうか。「detonation」は「異常燃焼」という意味の英単語で、デトネーション波という一種の衝撃波を伴った爆発的な燃焼を指します。デトネーションに際しては、燃焼波、入射波、反射波など様々な波動が発生、関与します。

ふとした機会に、このデトネーションの際の圧縮性流体のコンピューターシミュレーション動画を目にしました。1つに感じられたのは莫大なエネルギーの衝撃の中には、様々な速度・流动性を持つ多くの独立した波が存在しています。この曲でも同様に、様々なパルスが独立した渦を描きつつ、全体としては1つのエネルギー一体として拡散・収斂しつつ突き進んでいく、という音楽を目指しました。

なお、「sonorific」は「響きの」という意味。15周年を迎えた「響きの森」から、文化的な爆発的な伝播が起こることを願って。

■ Breezin' (ブリージン)／真島俊夫

文京シビックホール15周年記念として委嘱を受けて作曲したこの「Breezin'」は、ジャズ・ビート(4ビート)とアフロ・キューバンのリズムが交錯するホット・ナンバーです。全体のイメージとしては、初夏の「そよ風に吹かれながら(ブリージン)」爽やかな夕暮れの海辺を散歩するという感じです。

ジャズ・ビートのノリはロック(エイトビート等)に比べると、少し難しかかも知れませんが、よい演奏を沢山聞いて、練り返し練習することでの誰でも習得出来ます。

また、この曲にはジャズ演奏法やジャズ・ハーモニーの基本的な要素が多く含まれていますから、この曲を気持ちよく演奏出来るようになれば、他のジャズにも応用がきくでしょう。(尚、ジャズ・ギタリストのジョージ・ベンソンにも同名の名曲がありますが、それとは別の曲です)



■ SJ&P_16 "Viva Bunkyo Civic"／天野正道

この作品は昨年に引き続き「SJ&P」というタイトルを踏襲していますが、今回は文京シビックホール15周年委嘱作品、ということもあって「Viva Bunkyo Civic」というサブタイトルが付いています。曲は、かつて毎年行われていた所蔵「東京音楽祭」などの経音楽系音楽祭などのオープニングで使用される、典型的な16beat系ボップで書かれています。通常のBig bandにストリングスセクションを加えた、当時の音楽祭に於ける標準編成を想定してスケッチを作り、それを吹奏楽編成用にオーケストレーションしています。ですから、例えば練習番号Aの木管メロディーなどは、ストリングスセクションのイメージです。

何しろSet drums,E.bass,E.guit,Percs.が半モードです。これらのリズムセクションを完璧に仕上げ、その上に管楽器が乗っかかる、という作り方をした方が良いでしょう。吹奏楽にSet drums,E.bass,E.guit.などが加わった、という発想は捨てて下さい。リズムセクションだけで説得力のある音楽表現をし、ということが何よりも大事なのです。

福本信太郎（リベルテ常任指揮者）

1994年昭和音楽大学を優等賞を受賞し卒業。同専攻科に進み、学長賞を得て修了。サクソフォーンを丸山胤幸、宗貞啓二、D.デファイエ、J.M.ロンデックス、E.ルソーの各氏に師事。

1990年第7回日本管打楽器コンクールに最年少参加で入選。96年、99年同コンクールでは第2位に連続入賞。在学中より東京文化会館推薦音楽会、読売新聞社主催新人演奏会等、数多くの演奏会に出演。サクソフォーン奏者として、シエナ・ウインド・オーケストラ、NHK交響楽団、東京都交響楽団をはじめとする多くの在京オーケストラの公演及び録音に参加。東京佼成ウインド・オーケストラにおいては公演、録音に加え地方公演においてのソリストも務めた。近年は吹奏楽界においても活動しており、コンクール審査員やバンドジャーナル誌等での執筆をはじめ、昭和音楽大学吹奏楽団常任指導講師を務め、E.コーポーラン氏とのチーム・ディレクションのもとに毎年、昭和ウインドシンフォニー公演及びCD制作を行なっている。また、全国各地で指揮、指導活動を行っており、全日本吹奏楽コンクールにおいては川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団、相模原市民吹奏楽団の常任指揮者として2001年より（まだ毎年）渡り全国大会に登場している。

ブレーン社による2009～2012年度全日本吹奏楽コンクール課題曲クリニックDVDでは昭和ウインドシンフォニーを率いるクリニシャンを務めている。

2008年には世界最大の吹奏楽イベントであるミッドウェスト・クリニック（米国・シカゴ）に参加。ファイナルコンサートにおいて川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団を指揮し、世界各国から集まる聴衆から総スタンディングオベーションを受け大好評を博した。日本サクソフォーン協会運営委員、21世紀の吹奏楽“響宴”会員および選曲委員、日本管合奏指揮者会議（JWECC）運営委員。東海大学吹奏楽研究会常任指揮者。昭和音楽大学准教授を務め、後進の育成にもあたっている。

川口市・アンサンブルリベルテ吹奏楽団

1980年5月創団。35年目を迎える現在社会人を中心に75名で活動。（毎週土曜日の夜と不定期で日曜・祝日。練習会場：川口市立十二月田中学校・卓球室）本団は、団員相互の親睦と音楽技術の向上を目指し、地域社会の文化発展に寄与することを目的にしています。

年2回の定期演奏会、コンクールをはじめボランティア、依頼演奏等の活動の他に、川口市内の中学校への指導を行っている。

2000年に20周年を迎える7月上旬に100年以上の歴史があるスペイン・ヴァレンシア国際コンクールのゲストとして招聘を受け、ヴァレンシア市、モンセラット市、リリア市で演奏し好評を博す。

2008年12月には、毎年シカゴで開催され、10,000人以上の指導者が参加する世界最大の音楽教育のコンベンション、「ミッドウェスト・クリニック」に日本の一般バンドとしては初めて、厳しい審査をクリアし出演し、ファイナルコンサートで好評を博す。

吹奏楽コンクール全国大会へは18回出場し、“金賞”15回（最高得点1位6回97.98-03.07・12・14年）及び“銀賞”3回を受賞。

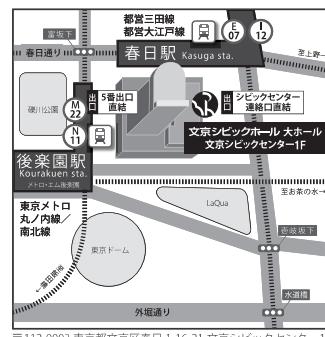
また、全日本アンサンブルコンテストでは、94年度・打楽器四重奏（松山）及び09年度・木管八重奏（新潟）、11年度・金管八重奏（津）が“銀賞”受賞（3回）、12年度・金管八重奏（盛岡）及び13年度・打楽器三重奏（倉敷）が2年連続“金賞”受賞。

■ 文京シビックホール 大ホール

〒112-0003

東京都文京区春日1-16-21

文京シビックセンター1階



〒112-0003 東京都文京区春日1-16-21 文京シビックセンター1F

●交通アクセス

- 東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園」駅【直結】
- 都営三田線・大江戸線「春日」駅【直結】
- バス：東京ドーム、外堀通り、水道橋停留所1番「文京シビックセンター（春日駅前）」
<http://bunkyo.ocn.ne.jp/access/>

座席表

